



生みの親といっしょに
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして
わたしを 見つめて
わたしを 聞いて
わたしを 呼んで

〔 私たち(社福)童心会の使命と役割 〕
～ 生きている喜びとWell-being 幸せを求めて ～

改めて2025年(令和7年)4月、私たち(社福)童心会の新しい仲間になって下さった皆さま、
本当に心から歓迎の喜びを申し上げます。

私たちの保育の歴史も古く、1973年から50有余年になりました。
そしてその歴史の歩みと共に保育(Child day care)から人間教育(human education and care)へと歩みを進めてきました。
「人間学と人間科学に基づく人間教育」の理念に基づく
「自分を創る・人を創る ～人として如何に生きるべきか～」を求め続けるべきだと考えたからです。

「基本理念は人間学」2000年以上も前からの東洋思想の訓え
「人間としての生きる習慣(礼儀)」笑顔・挨拶・思いやり(慈悲)・感謝(ありがとうの心)であります。
そして「人間科学に基づく理念」は2001年、OECD(経済協力開発機構)から発表された
「保育白書ECEC(Early Childhood Education and Care)」の中にありました。
「近年の脳神経科学の研究により、幼い子ども、特に3歳児未満の人生最初期にある子どもは、
有能な学習者であることが確かとなった。
3歳児未満児とそれより年長の子どもの学習能力を分別するのは、伝統や大人の都合であり、
科学的根拠に基づくものではない」と言っているのです。

昔から日本で言い伝えられてきた「3歳までは親と一緒にいることという今まで皆さまを苦しめてきた
「三歳児神話」に科学的根拠は何もなかったと証明されたのです。だから乳幼児期は
「starting strong(人生の始まりこそ力強く)」すなわち、学習の基礎ステージが最も重要だとも言っていました。
また私たち(社福)童心会の人間教育の基本理念は「五感を刺激する 0歳からの人間教育」であります。



笑ったかず一番
遊んだかず一番

だっこされたかず一番
でかけたかず一番

やさしくされたかず一番
チャレンジしたかず一番

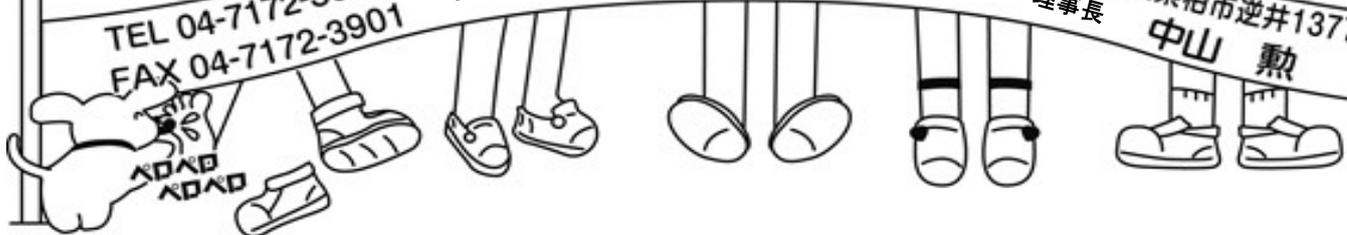


E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939
FAX 04-7172-3901

社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
理事長 中山 勲



〔人間教育のはじめ〕
～五感を刺激する 0歳からの人間教育～
見て 倣い 観せて 学び
聞いて 考え 聴かせて 習う
触れて 知って 触って 記憶する
風に香りを嗅ぎ
五味 五色 五感で 四季を味わう

そして最後に忘れてはならないのは、
2500年以上前からの先学者たちの訓えの意味を知り、守らなければならないのです。

〔天命を知る〕
天命によって生命を授けられた意味を知る

〔天意を知る〕
天意によって与えられた自分の使命を知る

私は先に「法人だより4月号」のタイトルに
〔私たち(社福)童心会の使命と役割〕～生きている喜びとWell-being 幸せを求めて～と書きました。
Well-being 幸せになろうよ！幸せになろうね！とは
皆さま一人ひとりが力を合わせてWell-being(心も体も健康で社会的にもより良い生活を送れる人)
になれるよう”自分らしい生き方”生きている幸せと喜びを求め続ける人間
に共に育って行ってほしいと願っているからです。

人間としての成り立ちの基盤(serve & return やりとり・受けこたえ)
～ 人格・人間性・人生観・主体(自分らしさ)を創る～

- 赤ちゃんが見ている方向が変わったら応える (Serve & return)
- 赤ちゃんがものに対して何かをしていたら応える (Serve & return)
- 赤ちゃんの模倣をする (Serve & return)
- 赤ちゃんが自分で何かすることを励ます (Serve & return)
- 赤ちゃんの考えや感情(mind)にあった話しかけをする (Serve & return)

～いまから・ここから・自分から～

1. 人格(personality)の核はどのように形成されたのか？
2. 人間性(Human Nature)の質はどのように養い育てられたのか？
3. 人生観(lifestyle)性格の基盤はどのようにして創られてきたのか？
4. 主体(agency)自分らしさの成り立ちはどのような歩みをしてきたのか？

最近の科学的エビデンスによると、10歳頃までにagency(主体・自我・自分らしさ)の四つの基盤は作られるのだそうです。
それを知って改めて私たちは気づいたのです。

それは人間学に基づく「思いやりと生きる力」という私たち(社福)童心会の目標、訓え
の中で育まれていた“人の成り立ち”だったのです。

それは生まれたばかりの新生児の時代から、
その人の欲求する感情や情動に対する的確な”応答行為(受けこたえ)”の中にありました。

私たち(社福)童心会の保育者仲間たちは、
それらの全てを nonverbal communication(非言語コミュニケーション)として
serve & return(やりとり、受けこたえ)の中で大切に育み続けてきたのです。
そして、それらの全てが(社福)童心会 の人間教育の理念(哲学)につながっていたのです。

改めて私はOECDが発表した「幼い子ども、特に3歳未満の人生の最初期にある子どもは、
有能な学習者である」という言葉を忘れないでほしいと願っています。

令和7年4月、今年もまた一日一生を念じながら
全ての仲間たちのWell-being”幸せになろうね！幸せになろうよ！”と祈り願い続けていくつもりです。
どうぞ いつまでも お幸せに！！

令和7年 4月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲